

第3章 成果報告②

履修学生の授業評価からみる 「中級日本語」の学習効果と課題

日本語教育センター員
藤田 恵

1. はじめに

「中級日本語」は、立教 GP の一環として、2012 年度から開講されている日本語科目である。春学期に A、B クラス、秋学期に C、D クラス、合計 4 つのクラスが開講されており、授業の内容は全て異なる。

日本語教育センターでは、文法や読解等のスキル別の日本語科目を複数展開しているが、「中級日本語」はそれらとは異なる特徴を持っている。以下に、「中級日本語」の特徴を示す。

①複合レベル型の日本語科目であること

J4、J5、J6 の 3 つのレベルの学生が履修できる。

②読解教材と映像教材を軸にして授業活動を行うこと

A、C クラスは読解教材、B、D クラスは映像教材を主教材として様々な活動（資料 1～4 参照）を行う。読解教材には語彙リストを添付し、読み物は履修学生が自分の日本語レベルに合ったものを選んで読めるように、生素材（ルビつき、ルビなし）と、語や文型等の表現を調整したものを配付している。映像教材は、全員同じものを視聴するが、事前に新出語彙の提示や意味の確認を行っている。

③授業外に Web 学習を行うこと

授業外に CALL システムを用いた「語彙」と「文法」分野の Web 学習を毎週行うことを課している。Web 学習の内容は、スキル別科目で学

ぶ内容に準拠したものとなっており、個々の学生の日本語レベルに合った教材を提供している。

④毎回の授業にティーチングアシスタント（TA）が参加すること

毎回の授業に日本語教育専攻の大学院生のTAが参加する。「中級日本語」のTAは、出欠確認等の軽微な作業だけではなく、担当教員の指導のもと、教育業務¹⁾にも積極的に関わっている。

以上のような4つの特徴を持つ「中級日本語」は、履修学生にどのように評価され、どのような学習効果を生んでいるのだろうか。それらを明らかにし、授業内容の改善に活かすため、「中級日本語」の履修学生を対象とした2つの授業評価の調査を実施した。次節よりその結果と考察を述べる。

2. 履修学生による授業評価

「中級日本語」では、前節で述べた授業の特徴を履修学生がどのように評価しているかを明らかにするために、2種類の授業評価の調査を行った。一つは履修学生全員に対するアンケート調査であり、もう一つは2学期連続で「中級日本語」を履修した学生に対するインタビュー調査である。本節では、この2つの授業評価の調査結果と考察を述べる。

2.1 履修者全員に対する授業評価アンケート調査

「中級日本語」の授業評価アンケート調査は、履修学生全員を対象に実施した。学期中にAとB、もしくはCとD、両方のクラスを履修していた学生には、どちらかのクラスで一度だけ回答するようにした。この授業評価アンケートは、授業中に10分程度で行った。アンケート用紙は無記名とし、自由記述欄を多く設けた。概要を以下に示す。

対象者：「中級日本語」履修学生 39名

実施年度：2013年度春学期、2014年度春・秋学期（計3学期）

実施時期：各学期の終了1週前の授業中

調査項目：（アンケート用紙の提示順）

- (1) どのクラスを受けましたか。
- (2) 「中級日本語」は J4、5、6 のレベルの学生と一緒に授業を受けました。
 - ①良かった点はありましたか。あったらその内容を書いてください。
 - ②困ったことがありましたか。あったらその内容を書いてください。
- (3) 「中級日本語」を受けて、日本語が上手になったと思いますか。
- (4) クラスで使った教材はどうでしたか。
- (5) Web 教材はどうでしたか。
- (6) Teaching Assistant が教室にいることについてどう思いますか。
- (7) 作文の教材はどうでしたか。
- (8) 他に意見があれば、書いてください。

2.1.1 複合レベル型日本語科目に対する評価

まず、「中級日本語」の特徴の一つである「①複合レベル型の日本語科目であること」に対する履修学生の評価を、調査項目(2)の回答の内容から述べる。

回答欄をみると、肯定的な内容を記述する(2)-①の項目には39名全員が回答していた。それに対し、否定的な内容を記述する(2)-②の項目に回答しているのは13名で、残りの26名は、空欄あるいは「特になし」という回答であった。このことから、履修学生は複合レベル型の授業に対して概ね肯定的な評価をしていると言えるだろう。

以下に、肯定的な回答の一部を挙げる。

- a. 上のレベルの学生の日本語能力の方が上手だからめざすところがありません。
- b. ほかのレベルの人をいっしょにべんきょうして、もっと自分ののうりょくをじょうたつしたいと思う。[省略]
- c. 上のレベルの人と話したから、さいしょにむずかしかったが、とくいになった。
- d. 高いレベルの人々は時々はじめて聞いたことばをつかって、新しいことばをおぼえられた。
- e. [省略] 高いレベルなら、自分のレベルのごいではなく、ごいを他の人に合わせる練習だ。

- f. [省略] 他の人に簡単な言葉で説明できるようになりました。
- g. 自分は J6 でも、J4/J5 の学生より日本語が下手な場合を知っている。
- h. 手伝ってくれるからいいと思う。
- i. いっしょに授業を受けてよかったと思います。先生にしつもんするのがはずかしかかったら、友だちにしつもんすることができるからです。
- j. 皆で助け合う。
- k. 他の人と仲良くできて、様々な違う意見を聞かせてくれて、よかった。
- l. [省略] あたらしい友達ができます。

(表記は履修学生の回答内容のママ)

a～dは、「中級日本語」の履修学生の中では、日本語レベルが下位であった学生の回答であろう。このような学生にとって、自身よりも日本語能力が高い学生が同じ教室にいることは、言語習得の目標として想像しやすく、日本語学習を継続する動機づけに繋がっていることが分かった。

e～gは、日本語レベルが上位の学生の回答であることが予想される。このような学生は日本語レベルが下位の学生にも伝わるように表現の言い換えを多用することを肯定的に捉えており、さらに複合レベル型クラスは自身の日本語能力の振り返りとして機能していることも分かった。

h～lの回答からは、協働学習の効果を学生自身が実感している様子が分かる。「中級日本語」では、授業の中にグループやペアでの活動を多く取り入れている。そのため、学生同士が教え合う機会も多い。このことが日本語学習の助けとなり、さらに社会的な人間関係の形成や視野を広げることに繋がっていて、学生自身がそれを実感できていることが分かった。

以下は、「中級日本語」が複合レベル型クラスであることに対する否定的な回答の一部である。

- m. 高いレベルとこうどうしたとき、きんちょうになりました。[省略]
- n. 最初に他の学生ほど私の日本語が上手じゃないので、恥ずかしかかった。
- o. 時々落胆しました。
- p. [省略] 上のレベルの人がわかったから、ちょっとバカみたい感じた。
- q. J5 と 6 ののはやい話すのをわかるのはときどきむずかしかったです。
- r. 高いレベルみんなはもっと上手だから、ときどき、みんな何を話してい

るのか分からないこともある。

s. [省略] 授業の中ではときどきチャレンジがぜんぜんなかった。

(表記は履修学生の回答内容のまま)

否定的な回答の内容は、2つに分類できる。一つは、m～rの回答から、自身よりも日本語レベルが上位の学生に劣等感を持ち、さらに授業活動に難しさを感じることである。もう一つは、sの回答から、授業活動を日本語レベルが下位の学生に合わせたものであると捉え、易しすぎると感じることである。両者は複合レベル型クラスを運営する上での課題と言える。「中級日本語」では、学期初めのオリエンテーションで、複合レベル型クラスであることの説明と、そのために学生同士が助け合いと教え合いを積極的に行い、学び合うことを期待していると伝えている。しかし、一部の学生は、他の学生に対して劣等感を持ってしまったり、授業活動の難度に対して否定的な評価をしていることが分かった。このことは、オリエンテーションでの説明内容と授業展開の方法を改善することで、解決していきたい。

2.1.2 授業活動に対する評価

次に、2つめの特徴である「②読解教材と映像教材を軸にして授業活動を行うこと」に対する評価を、調査項目(3)、(4)、(7)の回答内容から述べる。

調査項目(3)は、「中級日本語」を履修したことによって、自身の日本語能力が上がったかを自己評価するものである。この項目に対して29名が「はい」と回答しており、ディスカッションや発表等の活動を通して、話す能力が向上したと感じている学生が多いことが分かった。話す能力の他には、語彙の量が増えたという回答もあり、その理由に、読解教材、「意味調べ」の活動、日本語レベルが上位の学生との活動を挙げていた。一方で、「いいえ」と回答した学生は3名、「分からない」は7名であった。「いいえ」もしくは「分からない」と回答した学生の中にも、日本語能力の向上を感じている学生はおり、理由の記述欄に「中級日本語だけでなく、全てのクラスのおかげで向上した」と他の科目も影響していることについて述べているものもあった。また、「毎日、日本語を使っているので、上達したかは自分では分からない」と自己評価をすること自体に難しさを感じると回答している学生もいた。

調査項目(4)は、使用教材と授業で扱ったテーマに対する評価を問うもので

ある。以下に、回答の一部をクラスごとに挙げる。

Aクラス（読解教材：日本の観光地、祭り、江戸しぐさ）

- 面白かったです。日本の伝統的な文化について理解できるようになりました。
- テーマも教材も殆ど面白かった。
- 読み物3つもいいと思います。それは本当に知らないこと勉強できますから。
- 他のレベルの教材ももらったのはいい点だと思う。夏休みに自分でもっと勉強できるからだ。
- 役に立つが伝統的な言葉で読みにくいことがある。

Bクラス（映像教材：買わない若者、未婚化、イクメン）

- [省略] 社会の状況を如実に反映している。面白いです。
- DVDの中の言葉がちょっとむずかしかったが、おもしろいです。
- 現代の話題もいい。私の卒業論文は「イクメン」のことをめぐって、書くことにしました。
- 全部おもしろかったです。DVDを楽しめました。特にイクメンのことです。

Cクラス（読解教材：日本の若者、女性の生き方）

- レベルによって違うので、読みやすい。
- おもしろくて、レベル的によくてよかったです。
- 良いテーマだと思う。それは社会問題なので、ちがう考え方や他国のじょうきょうなどについて勉強になった。
- 面白かったが、多分もっといろいろな記事があったら、練習のために、いいと思う。

Dクラス（映像教材：日本の四季の特徴と年中行事）

- おもしろいです。あたらしいことばがわかります。
- とてもかわいかったです。いいまとめだったと思います。
- 少し分かりにくいでしたが、楽しかったと思っています。
- 面白くても、ちょっと子供っぽいでした。

（表記は履修学生の回答内容のママ）

この項目の回答は肯定的な評価ばかりであった。4つのクラスとも授業で扱っ

たテーマに関する記述が多く、いずれも履修学生の興味をひくものであったことがうかがえる。卒業論文のテーマ選定に繋がるほど、内容に興味を持った学生もいた。一方で、「役に立つ」「おもしろかった」と肯定的な評価をしつつも、「わかりにくい」「もっといろいろな記事がほしかった」「子どもっぽく感じた」と否定的な内容を記述した学生もいた。学生の満足度がより高まるように、教材の改善をしていきたい。

調査項目(7)は、「中級日本語」の授業活動の一つである作文についての評価を問うものである。作文教材に対しては肯定的な評価をする学生ばかりで、「よかった」「役に立った」「便利だった」「例文が参考になった」という回答内容であった。日本語教育センターでは、レベル別の作文クラスも開講している。この作文クラスを並行して履修している学生は、「作文のクラスと宿題が重なって大変だった」と宿題の量の多さを負担に感じることもあるようである。「中級日本語」の作文では、このことへの配慮として、提出日と提出回数の見直しを行い、改善したい。

2.1.3 Web 学習に対する評価

3つめの「③授業外に Web 学習を行うこと」に対する履修学生の評価を、調査項目(5)の回答内容から述べる。

Web 学習の教材は、履修学生の日本語レベルに合ったものを提供し、その内容はスキル別の日本語科目に準拠したものになっていることから、「レベルに合っていてよかった」「いい練習になった」と肯定的な評価であった。しかし、多くの学生が「やりかたが分からない」「自分の PC ではできない」等、CALL システムの環境について否定的な内容を記述していた。学期開始時のオリエンテーションで行っている Web 学習の説明に、使用方法と利用環境に関するものを加えることで、この問題を解決し、Web 教材の内容と効果に意識が向くようにしたい。

2.1.4 TA が授業に参加することに対する評価

最後に、「④毎回の授業に TA が参加すること」に対する履修学生の評価を、調査項目(6)の回答内容から述べる。

この項目に対しては、全ての学生から肯定的な回答を得た。履修学生は、「年

年齢が近い日本人がいて安心した」「先生が助かるのでいいと思う」等、TAが授業に参加することに対して肯定的に捉えていた。また、「中級日本語」のTAは、前述のとおり、軽微な作業をする参加者ではなく、教育業務にも積極的に関わっている。履修学生の回答には、「課題でも発表でも助けてくれた」「先生に聞けないうち、TAに聞けるのでよかった」「いつも一緒に発表するので、TAの発表技術が学べる」等、教育業務を行うTAであることを評価しているものも多かった。このことから、「中級日本語」のTAが円滑に教育業務を遂行でき、さらにその質がより高まるように、担当教員はTAの育成にも力を入れることが重要であることが分かった。

2.2 2学期連続履修者に対する授業評価インタビュー調査

履修学生の「中級日本語」への評価をより詳細に知るために、2学期連続で「中級日本語」を履修した学生の協力を得て、インタビュー調査を行った。本調査は、授業時間外に個別で30分程度の半構造化インタビューとした。概要を以下に示す。

対象者：「中級日本語」2学期連続履修学生 11名

実施年度：2013年度春・秋学期、2014年度春・秋学期（計4学期）

実施時期：学期開始から1か月～2か月経過時

調査項目：（インタビュー調査の回答順）

- （9）先学期に履修してみてどうでしたか。
- （10）どうして今学期も履修しようと思いましたか。
- （11）今学期、現時点で授業を受けてみてどうですか。

2.2.1 2学期連続履修者の回答から見る授業評価

調査項目（9）と（11）では、「中級日本語」のよい点と改善してほしい点、さらにどの日本語能力が伸びたと感じているかを述べてもらった。

以下に、肯定的な回答の一部を挙げる。

肯定的な回答：複合レベル型の科目であることについて

- 自分のレベルと違う内容も勉強するチャンスがあり、チャレンジができるので、とても楽しいし、とても役に立つ。

- 自分よりレベルが低い人と話すのも勉強になる。知識をあげたり、もらったりできる。
- 読み物のレベルを自分で選べるのが面白い。他のレベルのものにチャレンジができるのは、いいことだと思う。
- 先学期は下のレベルの読み物しか読めなかったが、休みに上レベルの読み物を読んで勉強することができた。

肯定的な回答：授業活動について

- クラスの中で、学生同士が話すという活動はいいと思う。自分の考えだけでなく、他の人の意見も聞けるし、テーマについての考えが深まった。
- 人数が多かったので、ディスカッションで毎回違う人と話せてとてもよかった。クラスの人数は多い方が嬉しい。

肯定的な回答：自身の日本語能力の伸びについて

- たくさん発表する機会があったので、話す力が伸びたと思う。
- 語彙が増えて、話すことが上手になった。

肯定的な回答：自国での日本語学習との比較

- 自分の国で勉強していたときは、話す機会が少なかったので、流暢に話せなかった。このクラスの勉強は、自分の国の外国語の勉強とは違う。
- ペアワークやグループ活動は自分の国では経験したことがなかった。自分の国では先生が説明をして、学生は聞くだけだった。
- 自分で調べて発表することが楽しかった。自分の国では先生が説明した内容を覚えたら終わり、自分で調べることはなかった。
- 授業で勉強した内容に興味を持ったので、後で自分で資料館に行った。せっかく日本に来ているので、教室で勉強したことを、実際に見てみたいと思った。
- 自分の大学の先輩から、「中級日本語」はおもしろいと勧められた。

(内容は筆者要約)

インタビュー調査の回答からも、授業評価アンケートと同様に、履修学生は複合レベル型の科目による学習効果を実感しており、そのことを肯定的に評価していることが分かった。さらに、話す活動が多いため、話す能力に特に伸びを感じていることも多く語られた。また、本調査では、自分の国の日本語学習と比較した回答も得ることができた。回答の内容をみると、自国の日本語学習よりも「中

級日本語」は授業活動の種類が豊富であることを高く評価していることが分かる。これは、「中級日本語」の授業評価の範囲にとどまらず、学生の日本留学への満足度にも深く関わることであると考える。以上のことから、「中級日本語」の履修は、本国では得られなかった新しい学びを得る機会となり、立教大学を留学先を選んでよかったという満足感を得ることに繋がりがうることが分かった。

以下は、否定的な回答の一部である。

否定的な回答

- 1 時限目は早いので、もっと遅い時間にしてほしい。
- 学生が多すぎて、楽しめないときがあった。
- 学生が多いので、待つ時間があり、暇なときがあった。

(内容は筆者要約)

否定的な回答には、開講時間に関するものと、クラスサイズに関するものがあった。開講時間に関しては、早い時間であることよりも、授業に出席することで多くの収穫を得ることができると感じさせるようにしたい。クラスサイズに関しては、授業展開の方法の見直しが必要であると考え。毎学期、履修学生数は変動するため、学生数に合わせて柔軟な対応できるように授業展開の方法を考えていきたい。

2.2.2 「中級日本語」に期待されていること

調査項目(10)では、2 学期連続して「中級日本語」を履修した理由を述べてもらった。ここで述べられた学生の履修目的と動機から、「中級日本語」で期待されていることを明らかにしたい。

以下に、調査項目(10)の回答の一部を示す。

- 「中級日本語」は全ての技能(文法、読解、作文、聴解・会話)が勉強できるから。
- このクラスで学んだことは、池袋キャンパスの他の授業に役に立つと思ったから。
- 専門科目の授業と重なって、スキル別の日本語科目が全てとれなかった。「中級日本語」はいろいろなことをするので、とれなかった科目の分が補えると思ったから。

- 先学期に履修して、日本語能力がとて伸びたと感じたから。
- 今学期は、新座キャンパスだけで勉強をしているから。
- 多くの新入生に会って、友だちを増やしたかったから。

(内容は筆者要約)

調査項目(10)の回答から、「中級日本語」に一番期待されていることは、多くの技能が学べることであると言えよう。「中級日本語」では、読解教材による読解の学習、映像教材による聴解の学習、ペアやグループの活動による会話の学習、Web教材による語彙と文法の学習等を行うことができ、多くのことが学べる科目であることが評価されている。さらに、このことがスキル別科目での学びにもつながり、両方を履修することで、より高い学習効果を感じていることも分かった。また、専門科目との重なりのため、日本語科目が十分に履修できない学生にとっては、それを補う目的として利用されていた。以上のことから、「中級日本語」は複数の技能を伸ばすことが期待されており、立教大学の留学生のニーズに合ったものであることが分かった。

3. まとめ

本稿では、「中級日本語」の履修学生を対象とした2つの授業評価の調査を実施し、その結果から、「中級日本語」の学習効果と課題を考察した。2つの調査結果から、「中級日本語」の4つの特徴はいずれも履修学生に肯定的に評価されていることが分かった。特に、複合レベル型の科目であることと、教育業務を行うTAが毎回参加することが高く評価されており、これらの特徴により、新しい学びを得ているという実感を得ていることが分かった。また、「中級日本語」の履修は、日本留学をしたことおよび立教大学を留学先に選んだことへの満足度にも繋がるのが明らかとなった。以上のことから、開講時の授業設計と現在の授業運営は、概ね成功していると言えるであろう。

一方で、改善の余地が残されていることも明らかとなった。学期開始時のオリエンテーションで行う授業説明の内容の改善、学生数の変動に対応できる授業方法の検討が課題として残されている。「中級日本語」が、学生にとってより多くの学びを得る場となるように、授業内容の検討と改善を続けていきたい。

注

1) (中級日本語 TA の業務の一例)

教材作成の補助、課題の添削の補助、フィードバックの補助、履修学生のレベル差への対応、モデル発表、グループワークやディスカッションにおけるファシリテーター

資料1 2014年度春学期「中級日本語A」の授業活動

テーマ：①日本の観光地、②祭り、③江戸しぐさ

回	授業内容	作文
1	オリエンテーション テーマ①【日本の観光地】：導入	
2	テーマ①：資料「日本の観光地化の工夫」内容確認	作文①説明
3	テーマ①：「日本の観光地化の工夫」発表	作文①ブレインストーミング
4	テーマ①：資料「観光地のまちづくり」分担読解	作文①提出
5	テーマ①：「観光地のまちづくり」発表	作文①FB
6	テーマ②【祭り】：導入 資料「日本の祭り」内容確認	作文①再提出
7	テーマ②：「日本各地の祭り」発表準備	
8	テーマ②：「日本各地の祭り」発表	作文②説明
9	テーマ②：自国の祭りの紹介	作文②ブレインストーミング
10	テーマ③【江戸しぐさ】：導入 江戸時代について調べる	作文②提出
11	テーマ③：資料「江戸しぐさ」分担読解 「江戸しぐさ」発表準備	作文②FB
12	テーマ③：「江戸しぐさ」グループ発表	作文②再提出
13	期末テスト（Web学習の語彙と文法） 【最終発表】：発表準備 授業評価アンケート実施	
14	【最終発表】：発表	

資料2 2014年度春学期「中級日本語B」の授業活動

テーマ：①買わない若者、②未婚化、③イクメン

回	授 業 内 容	作 文
1	オリエンテーション テーマ①【買わない若者】：言葉リスト①配付、意味調べ分担決め	
2	テーマ①：「言葉の意味調べ」発表、VTR視聴（前半） ディスカッション 語彙リスト②配付、意味調べ分担決め	
3	テーマ①：「言葉の意味調べ」発表、VTR視聴（後半）、 ディスカッション	
4	テーマ②【未婚化】：言葉リスト①配付、意味調べ分担決め	作文①説明
5	テーマ②：「結婚観」ワークシート内容確認、発表 「言葉の意味調べ」発表、VTR視聴（前半） 語彙リスト②配付、意味調べ分担決め	
6	テーマ②：「言葉の意味調べ」発表、VTR視聴（後半）、 ディスカッション	作文①提出
7	テーマ②：「出身地の結婚事情」発表準備 テーマ③【イクメン】：言葉リスト①配付、意味調べ分担決め	作文①FB
8	テーマ②：「出身地の結婚事情」発表 テーマ③：「言葉の意味調べ」発表 語彙リスト②配付、意味調べ分担決め	
9	テーマ③：「イクメン」発表 「言葉の意味調べ」発表、VTR視聴（前半）	
10	テーマ③：VTR視聴（後半）、ディスカッション	
11	テーマ③：「各国の保育事情」ディスカッション	作文②説明
12	【最終発表】：説明、発表準備	作文②提出
13	期末テスト（WEB学習の語彙と文法） 【最終発表】：発表準備 授業評価アンケート実施	
14	【最終発表】：発表	作文②FB

資料3 2014年度秋学期「中級日本語C」の授業活動

テーマ：①日本の若者、②女性の生き方

回	授業内容	作文
1	オリエンテーション	
2	テーマ①【日本の若者】：導入	
3	テーマ①：資料①タスクリーディング ディスカッション	作文①説明
4	テーマ①：資料②タスクリーディング 話し合い	作文①ブレイン ストーミング
5	テーマ①：資料③～⑤分担当読解 発表説明	作文①提出
6	テーマ①：資料③～⑤発表準備	作文①FB
7	テーマ①：資料③～⑤グループ発表	作文①再提出
8	テーマ②【女性の生き方】：導入	作文②説明
9	テーマ②：資料①タスクリーディング ディスカッション	作文②ブレイン ストーミング
10	テーマ②：資料②タスクリーディング 話し合い	作文②ブレイン ストーミング
11	【最終発表】：クラス内インタビュー	
12	【最終発表】：インタビュー結果まとめ 発表準備	作文②提出
13	期末テスト（WEB学習の語彙と文法） 【最終発表】：発表 授業評価アンケート実施	
14	【最終発表】：発表	作文②FB

資料4 2014年度秋学期「中級日本語D」の授業活動

テーマ：日本の四季の特徴と年中行事

回	授業内容	作文
1	オリエンテーション 【冬】：言葉リスト配付、意味調べ分担決め	
2	【冬】：「言葉の意味調べ」発表、DVD視聴 出身地の季節紹介	
3	【冬】：発表説明、準備 ディスカッション（録音FB）	
4	【冬】：発表 【春】：言葉リスト配付、意味調べ分担決め	
5	【春】：「言葉の意味調べ」発表 ディスカッション（録音FB）	
6	【春】：ディスカッション（録音FB） 【夏】【秋】：言葉リスト配付、意味調べ分担決め	作文【春】説明
7	【夏】：「言葉の意味調べ」発表 「浴衣」「お中元」データ読み分担決め	作文【春】ブレインストーミング
8	【夏】：DVD視聴 「データ読み」発表準備	作文【春】提出
9	【夏】：「データ読み」グループ発表 【秋】：「言葉の意味調べ」発表、DVD視聴	
10	【秋】：ディスカッション（録音FB）	作文【春】FB、 作文【秋】説明
11	【秋】：ディスカッション（録音FB） 【最終発表】：説明	作文【秋】ブレインストーミング
12	【最終発表】：発表準備	作文【秋】提出
13	期末テスト（WEB学習の語彙と文法） 【最終発表】：発表 授業評価アンケート実施	
14	【最終発表】：発表	作文【秋】FB